

**委員会だより**

<7月7日(日) 10名出席>

【1】財務報告：6月度決算報告(甲斐さん)  
⇒ 委員会了承。  
年間予算¥4,300,000は達成出来る見通し。  
信徒各位に、ご協力願った成果といえる。

【2】お知らせコーナー：

- (1)第4回横浜教区福祉委員会セミナーが、6/15に横浜カトリックセンターで開催：  
・清水さん、岩崎さんが出席された。  
・内容は、3名の方々の体験談(麻薬中毒、小中高生の登校拒否)であり、有益であった。
- (2)山崎神父様、黙想会ご出張(7/8~7/12、於中軽井沢修道院)：留守当番表は揭示済。  
今回は婦人会に7:00pm迄お願いします。
- (3)大型掃除機購入の件：  
購入する方向で、花坂さんが検討中。
- (4)恒例の卓球大会：8/25開催予定で場所申込。
- (5)青少年対策を考える会：レジオ会長の中島さんより、協力申し入れを頂いた。

【3】お話し合いコーナー：

- (1)卓球大会：委員は、委員会より花坂、井上さん、壮年会より宮崎、美底さん、婦人会にも選任を依頼。上記委員で準備委員会を7/28に開催。信徒会より¥50,000拠出予定。
- (2)敬老の日のお祝いの件：  
・日取りは、9/8(日)に決定。  
・具体的準備を走り出すこととする。  
・お祝い品選定など、例年通り、石井さん、小山さんをお願いします。  
・予算は、一般会計より、¥120,000。
- (3)バザーの件：  
・日取りは、10/27(日)に決定。  
・バザー委員は次の通り：  
委員会：清水さん、花坂さん、甲斐さん、  
壮年会：井上さん、橋さん、鈴木さん、  
婦人会：巢田さん、冨田さん、山本さん。  
・第1回目委員会を、9/14(土)10:00amに開催。
- (4)要理学校、夏期合宿の件(井上さん)：  
・日程は8/9(金)~10(土)の1泊2日(於中和田教会)  
・対象者は7名で、内、初聖体対象者は2名(8/11(日)のミサで初聖体の段取り)  
・予算は、¥30,000で間に合う見込み。
- (5)「葬儀」について：

・従来、段取り、規定等が明確に決まっていなかったが、「最低限の決め事」を明確にすべく、清水委員長を中心に検討を進める。(謝礼、水道光熱費、宿泊費・・・等、明確にしておいた方が、使う方も使いやすい。)

(6)「広報 なかわだ」の件：

・新企画の「青少年コーナー」の滑り出しも順調な様であり、この際発行を隔月にし、内容の充実、刷新を図ってはどうかとの課題提起が甲斐さんよりあり。検討していく。

(7)その他：

・7/14 9:00amのごミサは、「心のともしび」運動の近藤雅広神父様が担当して下さい。

**壮年会だより**

<7月28日(日) 10名出席>

- > 卓球大会の準備委員会が7月28日にあります。
- > 大型掃除機を新しく購入する。(花坂さんにお問い合わせしました。)
- > 宣教委員を七浦さんにお問い合わせしました。
- > 一粒会大会が9月16日に鶴見教会であります。
- > 敬老会を9月8日に行います。(47名)

**婦人会だより**

<7月21日(日) 23名出席>

- > 卓球大会 婦人会からは、中谷さん、鈴木さんまたは七浦さん。親睦会準備は婦人会役員が行う。
- > バザーについて  
食堂で作るもの決定  
①おでん ②カレー ③お汁粉 ④紅茶とケーキセット  
委託品の販売について  
①お茶、椎茸 ②クッキー ③鉢物と植物 ④ドロ様うどん
- > 九月の奉仕日  
第一週、第二週共、水曜日です。
- > 自主製作品と、新品の不用品を入れていただくための箱を置きましたので、宜しく御願ひ致します。

次回例会 9月15日(日) 次回当番はC地区です。

**ミサ当番表(96年8月、9月)**

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	備考
8/4	年間第十八主日	橋	大宮	9/1	年間二十二主日	清水	大宮	壮年会
8/11	年間第十九主日	青年会	岩淵	9/8	年間二十三主日	青年会	岩淵	青年会
8/18	年間第二十主日	婦人会役員	石川	9/15	年間二十四主日	婦人会C地区	石川	婦人会
8/25	年間二十一主日	山田	森田	9/22	年間二十五主日	小谷	森田	壮年会
				9/29	年間二十六主日	婦人会C地区	大宮	婦人会

※当番の方は10分前には集合して下さい。  
※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。

(萩原: Tel. 802-6258)

**今月の予定**

- 聖母の被昇天 8月15日
- 卓球大会 8月25日
- 要理学校 8月9, 10日
- サロン 8月11日



**第217回**

カトリック中和田教会  
広報委員会発行  
泉区 中田町 2701  
Tel. (045) 803-6141  
1996年 8月4日



**模索の補冊 ①**

山崎 正俊

神様の、ほどほどのおあしらい振。  
年に一度だけの黙想会への参加メモ。

◎ 「講話の時間の最後が、どう結ばれることになるか、楽しみです」と、口をすべらせてしまった。これまでのどれとも違う、型破りの内容のせい、御自分の御苦心談のおそまつ。どうなるのか、気にしていたから。

(鉄道員を中心とした、カトリック教会の信徒たちの全国大会での、OBとしての黙想説教に、気軽に、自分の失敗話とはいかないまでも、それと似たような話題をえらび、別のことを心掛けていたらよかったのという反省の思いをこめて、話しをしたことがあったが、これは、労働組合が強くなりすぎたのを弱めようと、国鉄の分割民営を実現させたかのようにも見え、職場内での様子がトゲトゲしくなると気落ちして、働くことに迷いが出てきたようなのなら、気を引きしめてほしく、そのような心配のしすぎからのことだったのだとの、思い出があった。)

◎ いずれも、私の思い過ぎしのことで、あまり問題とはならず、あの頃でも、それなりの生き方で乗り切り、よい人生勉強として役立て、当然のこと、つらさはいろいろとあったにしても、人生を棒に振ることにもならず、若い人は若いなりの、変わり身のはやさなどで、他の場所に移ったりして、すべてを気楽に飛び越えてしまわれた。このたびのことなどは、「捨てる神あれば拾う神あり」とか、とにかく、明日の結びなど、「信仰」と「健康」。それに、「頑固」さなんぞですよと、軽くいなされてしまった。

◎ 教区の重要な役職にあること十数年、あまりにも気安く、「ハイ」「ハイ」と引き受け

すぎで、ワリを食わされすぎになっているのではないかと云われ、自分でもそれを認めるしかなく、どうしようもない性分なのだそう。 (私などはそうでもないが、すぐには断るつもりになるので、誰かが身を乗り出していると感じるや否や、喜んでおゆずりできるせいか、年寄りのひやみずめいた、無駄ごとになり、アイスミマセヌは胸のうち。「有り難き仕合わせ」となり、手前勝手の時間つぶしで、けっきょく、乱読とうたた寝のヒマツブしか。これはどうも驚いた。)

◎ 講師の方は、四十数年の司祭生活。丈のわりに大頭。そのはっきりした大型の造作と半白のカンロク。親しみ深い雰囲気はただようおかげで、キラクな数日が恵まれた。(出だしは雨風が強く、季節はずれのようなヒエようでも、終りの一日半は意外な陽光に守られ、浅間山は鬼押し出し側からの写真におさめることが、これは思いもかけない友からの御親切なおさそい、ついで温泉入湯楽。黙想の舎への住きは勿論のこと、帰りも、快く、車に便乗させてくださったお方のおはからい。あのトラピストの大修道院長による黙想の思い出とかさなる「よろこび」。

◎ 何処がそうなのか自分ではわからないのに、よく云われたことは、「気が弱い」「ずうずうしい」などの、胸に刺さるような嫌な言葉がある。「能なし」「穀つぶし」「無慈悲もの」も、私には侘しさをかきたてさせられるものだが、このほうは、云われるだけのことはあるので、どうでもしろうと、ふてくされられる。すぐには、どうにもできないことは、いくら非難されても、「それが、どうした」と思うだけのこと。

# 受胎告知教会

甲斐 至信

受胎告知教会はナザレの町の中央部にある。ガリラヤのナザレは標高350mの丘陵にあり、東は変貌の山(2説ある)タボル山、同じくはるか北に雪を頂くヘルモン山、西には聖書にしばしば美、豊沃、繁栄、幸福等の象徴として語られるカルメル山が眺められる。このような景勝の地に受胎告知の教会がある。隣には聖家族の教会(聖ヨゼフの教会)が並んで建てられている。受胎告知教会の内部には世界の信者から寄贈された聖母子をテーマにした絵画が飾られ、着物の姿の「華の聖母子」(長谷川路可)がひととき素晴らしく描かれ、捧げられている。

6か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人の許婚である乙女のところに遣わされたのである。その乙女の名はマリアといった。(ルカ1.26-27)

受胎告知の話は、ルカとマタイの福音書にしか語られていない。ナザレの町にヨセフという大工がいた。この頃の大工は農業を営みながらの兼業で、頼まれて働く出稼ぎ大工だったようだ。敬虔なユダヤ教徒だったヨセフは、仕事のかたわらユダヤ教の会堂で祭司と共に聖典を読み熱心に祈る日々を送っていた。彼は純朴な青年で、彼には15才になる許婚のマリアがいた。彼女も純真な娘であり、羊の毛を紡ぎ、町の井戸で水を汲み、洗濯をしたりと、家事を手伝いながらヨセフとの結婚の日を待っていた。

そんな平凡な娘のうえに、ある日、全く人生を変えてしまうような出来事が起きた。陽の光の差し込まぬ穴のよな住居(受胎告知教会の地下にあるマリアの住居)でいつものように家事をしていた時、彼女の身近に誰かがたたずみ彼女に言った。

「めでたし、聖寵充ち満てるマリア、主御身と共にまします。御身は女のうちにて祝せられ、御胎内の御子イエズスも祝せられ給う。」  
驚きのあまり声も出せぬこの15才の乙女は、たしかにはっきりと天使の声を聞いた。告知の最初の言葉である。(私達はこの時の言葉を天使祝詞として唱えている)天使は更に伝える。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を生むが、その子をイエズスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。」  
マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。」わたしは男の人を知りませんのに。」  
天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」  
この驚きのなかで、神の意志に絶対従順だったこの娘マリアは答えた。「お言葉の通り、この身に成りますように」  
そこで天使は去っていった。

遠藤周作は、この時のマリアの心理を分析することは絶対に不可能であろう。彼女のそれまでの生活はまさに二つに引き裂かれたのだ、彼女の人生に神的なものが火玉のように突入したのだと書いている。

また、次のように、二人が人間として苦悩したであろうことも書いている。  
マリアには苦しみがあった。この出来事をヨセフには黙っていたからである。おそらくヨセフは信じてくれないという不安が彼女をそうさせたのだ。——と

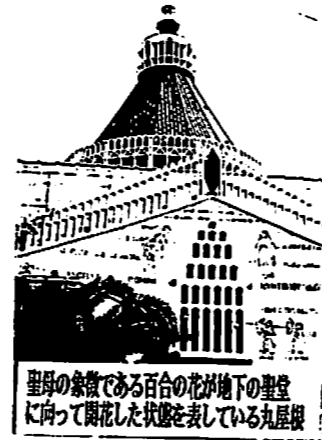
マリアが身ごもったことを知った時、純朴な青年ヨセフはなやみ、黙って婚約を破棄しようと決心したと彼の苦しんだ様子をマタイ福音書から取り上げている。(マタイ1.18)

ルカ福音書には、マリアの受胎告知に続き彼女の親類(従姉)エリザベトがすでに6カ月の子を宿していることをマリアに天使が伝えている。不妊の女と言われてきたが、年老いたエリザベトに神はその願いを聞き入れて子を与えようとしている。神に出来ないことは何一つない。その子は洗礼者ヨハネである。



マリアはユダの山里エンカレムを訪れエリザベトに会い天使のお告げを話した。マリアがすぐにエリザベトのもとを訪ねたのは、彼女はやはり告知の真実を確かめたかったのかも知れない。  
マリアはお告げを聞いて、まず母アンナに話した。母は、数ヵ月後に結婚式を迎える娘の突然の出来事に、激しく狼狽したに違いない。何とか無事に結婚させたいと願った。敬虔なユダヤ教徒として神の意志に従うか、婚約者ヨセフに誰が話すか、お告げを真実として理解してもらえるだろうか、……母アンナは、それらのほざまで心を大いにくれた。  
ヨセフに主の天使が夢に現れ「マリアの胎の子は聖霊によって宿った」と伝えた。ヨセフは信じた。

やがて幼子は成長し神と人に愛された。そして一家は、人々に聖家族としてを敬愛された。総てが神のはからいでなされた。



第8回 おわり

## 三一、五三六千回 (31,536千回)の教え

七浦 鑑吉

夏の陽がさんさんと降りそそぐなか、庭の木々たちが元気一ぱい緑を茂らせ気持ちよさそうにそよ風をうけている姿を見ていると、以前大病後の夏、まだ元気になっていない身でじっと庭を眺めていたときのことを思い出します。

それは丁度今ごろ、一通のお見舞の手紙をいただいたときのこと。普段元気であるときは健康ということに無関心で、元気そのものに何の不思議さも思っていなかったことを、お手紙の中で、生きている身体というものは何よりも精巧につくられており一分間に六〇脈打つ心臓は一年で31,536千回休むことなく動きつづけており、五十年六十年不平も云わず怠けもせず動きつづけてくれている体を、もっといとおしく大切にすることです。とお教えいただき、あの時不幸に思っていた病の苦しみも、それはここに命と云った大切な生きた体があるからこそ、目の前の緑の美しさも愛でることができると思い知り、一つしかない体を、もっと大切にしなければいけないとしみじみ悟ったことを思い出したところでした。

すくすくと伸びている夏の木々たちの姿。ただ緑色だけの衣を着ている姿だけなのに、どうしてこのように美しいのだろう。それは健康で生々とした元気な姿だから、と見てとったとき、幸せはやはり人も木もまず元気であることが第一であり、今も休みなく動きつづけている自分の脈打つ手を握って、この恵みを与えてくださっている神にたいして改めて感謝の念を抱いたところでした。

今は、せめて元気な体であるうちに多少なりとも神のみ旨に叶う生き方ができればと、庭の緑を眺めては、ひとりごとを木々たちに語りかけたりしている今日このごろです。



### 青少年コーナー



## 卓球大会に参加しよう!!

ピンポンは英国で始まりました。独創性豊かな英国人は、テニス、ゴルフ、ラグビー、サッカー等世界に知られる多くのスポーツの他、科学技術分野でも多数の発明を生み出しました。当時テーブルテニスと言われ、食卓のテーブルで、ゴムとコルクでできたボールやありあわせの道具を使って遊んでいました。テニスの始まった1873年より後にできたのですが、正確な年は分かっていません。1900年頃には、今のようなセルロイド製のボールに変わり、英国、米国で盛んになりました。1933年からは国際大会が始まり、1960年以降は中国が圧倒的な力を持ちましたが、日本、スウェーデン、ハンガリー等も時々優勝しています。オリンピック種目への採用は意外に最近、1980年代の後半の事です。

さて若いも若きも楽しめるこのピンポン、今年も8月25日に恒例の中和田教会卓球大会が行われます。君たちの若い力で、是非この大会を盛り上げて下さい。多数の参加をお待ちしています。

- \* 御結婚  
6月24日 於 二俣川教会  
マリア 植田 敦子 横浜市泉区中田東  
守田 聡
- 7月21日 於 磯子教会  
キアラ 久保田 敦子 大和市下草柳  
玉城 学
- \* 洗礼  
7月21日 於 中和田教会  
パウリーノ 石井 築雄(つきお)  
(1996年6月22日生) 泉区和泉町三七〇九
- \* 横浜教区 一粒会大会  
9月16日(月) 10:30~15:45 聖ヨゼフ学園  
多数の方の御参加をお願い致します。  
掲示板に申し込み用紙があります。(8月20日迄)
- \* 第7回卓球大会 8月25日9時ミサ後  
於 立場地区センター (この後懇親会)  
掲示板の用紙にお申し込み下さい。(締切8月11日)  
会場は上履き必須ですので、ご持参下さい。  
不要なビール券ありましたら御寄付下さい。
- \* 教会委員長代行  
ご都合により清水委員長は年内お休みされます。  
委員長代行は、甲斐さんをお願いすることとなりました。